



子ども環境フォーラム2017



2017年9月16日(土)

於：川口市立幸町小学校

認定NPO 法人川口市民環境会議

後援：川口市教育委員会

協力：川口市立幸町小学校



あいさつ

認定NPO 法人川口市民環境会議 代表理事
川口市教育委員会 学校教育部指導課
川口市立幸町小学校 学校長

浅羽 理恵
川島 慎也 様
黒澤 誠 様

ワークショップ体験

- ① どこんじょう草花をさがせ
- ② 「エルザの屋上から緑を見つけよう
- ③ 「エネルギーって」何?
- ④ サイエンスショー
- ⑤ 手作りおもちゃ
- ⑥ エコなクッキング
- ⑦ 段ボールで家作り
- ⑧ アクリルたわし作り
- ⑨ 自然の材料で工作
- ⑩ 土が水をきれいにする

環境活動発表

- 1 差間小学校4年生
- 2 安行小学校
- 3 安行小こどもエコクラブ
- 4 自然っ子クラブ
- 5 戸塚南小あすばるエコクラブ
- 6 自然探検コロボックルくらぶ
- 7 メッセージ
- 8 会場校学校紹介

この事業は公益財団法人サイサン環境保全基金の助成を受けて実施しました。

1. 川口市立差間小学校 4年3組 菊地 かなた

発表テーマは「環境を守るためにできること」です。

★差間小学校には自然がいっぱいあります。いろいろな種類の木や花があり、とてもきれいです。そして、差間小学校では、いろいろな環境活動に取り組んでいます。

給食の牛乳パックと学校で出される古紙・段ボールの回収をしています。みんなの協力で、交換してもらえるトイレットペーパーの数も増えてきました。また、ペットボトルのキャップやインクカートリッジの回収を家庭にも呼びかけて行っています。

★自然を生かした学習も進めています。

各学年で、理科やわくわくタイムなどの授業で、野菜の栽培、米作りなどを行っています。私たち4年生はゴーヤの観察学習を行いながら、グリーンカーテンを作りました。

★また、わくわくタイムでは「環境を守ろう」、社会科では、「くらしとごみ」「くらしと水」の授業があります。



自然を生かした学習

- 1年生 サツマイモ栽培 昆虫さがし
どんぐり遊び クリスマスリース作り
- 2年生 野菜栽培 ザリガニ釣り
トウモロコシの皮むき
- 3年生 チョウを育てる ソラマメの皮むき
- 4年生 **ゴーヤのグリーンカーテン**
- 5年生 米作り
- 6年生 ジャガイモ栽培

わくわくタイム「環境を守ろう」

社会科「くらしとごみ」「くらしと水」

わくわくタイム①

1学期のわくわくタイム「環境を守ろう」の学習で、環境アシスタントの神山先生と牧野先生に、地球の温暖化で、シロクマやオランウータンが少なくなっていることや、島がなくなっていることを聞きかなりショックを受けました。

また、わたしたちは、1日に一人で1キログラムのごみを出していて、そのごみを川口市で処理するために、1年間で8億7000万円かかるということに驚きました。お話を聞いてから、わたしたちは家から持ってきたごみを、川口市のルールで分別してみました。分別された資源ごみは、全部リサイクルできることを学びました。

「環境問題について」「ごみの分別体験」



わくわくタイム②

2回目の授業では、3Rの大切さを知ることができました。リサイクルに協力をしている地域・会社があることを、とてもすごいと思いました。ペットボトルが、植木鉢や衣服になったり、牛乳パックがトイレットペーパーに変身することにおどろきました。

また、神山先生が、日本が世界で一番ごみを燃やしていること、それにより自然が少なくなってきた、こまっている国があることを教えてもらいました。そして、牛乳パックを使い、紙すき体験をしました。学校の庭に咲いているお花を入れて、きれいで丈夫な紙を作ることができました。



わくわくタイム③

「グリーンコンシューマーになるために」

★3回目の授業では、グリーンコンシューマーについて教えてもらいました。グリーンの緑は環境をイメージし

た色で、「環境のことを考えて買い物をする人」という意味なんだとわかりました。

これからは、えんぴつや消しゴムなどの文房具も気をつけて買いたいと思いました。



社会科「くらしとごみ」

★社会科の「くらしとごみ」の授業で、身のまわりにあるごみについて調べました。道路や公園などに、たばこのすいがらやおかしなどの箱が落ちていました。もっとおどろいたことは、人通りが少ない場所には電化製品やソファなど大きなごみがすてられていたことです。ごみ出しのルールを守らない人がいてとても残念です。

差間周辺の様子を調べる



ごみ減量大作戦ドリーム会議

★単元の最後には、「ごみ減量大作戦ドリーム会議」が開かれました。クラスのみならず、ごみを減らすために学校・家庭・地域でどんなことができるか、たくさんのアイデアが出されました。

くらしとごみ 月 日 ()

4年 組 番 名前

課題

ごみ減量と人口の関係

ごみ減量がかかえる問題

自分たちができることを考える

自分 家族 地域

自分たちができることを考える

自分 家族 地域

～自分たちができることを話し合ってみよう～

家でごみをすてる

スーパーマーケット

歯みがきのときに

ぞうきんがけをする

みんなは「3R」って知ってる?

① 1番大切なR リデュース Reduce

② 2番大切なR リユース Reuse

③ 最後のR リサイクル Recycle

自分たちができること

社会科やわくわくタイムの授業で、環境を守るために「自分たちができること」を考えました。主なものとして、

- ★ごみをきちんと分別する
- ★グリーンコンシューマーになる



- ★食べ残しをしない
- ★3Rでゴミをへらす
があげられました。



学校

次に、学校でできることをまとめました。

- ★給食を残さず食べきる
食べきれずに捨てられないようにします。
- ★そうじでバケツを使う
ぞうきんをしぼるときは水をむだに使いません。
- ★プリントの裏を使う
使わなくなった紙もメモなどで活用できます。
- ★紙ごみを分ける
小さな紙や習字の半紙などよごれた紙も分別します。そして、今クラスで作ろうと考えているのは「環境かるた」です。材料や内容を、みんなで考えているところです。

- 給食を残さず食べきる
- そうじでバケツを使う
- プリントの裏を使う
- 紙ごみを分ける
(習字の半紙など)



○環境かるたを作る

家庭

家庭です。

- ★電気を大切に使う：だれもいない部屋の電気やつけていないテレビの主電源を切ります。
- ★水を大切に使う：手を洗うときや歯をみがくときに水を出しっぱなしにしないようにします。
- ★ごみを分別する：リサイクルできる資源物を捨てないようにします。
- ★マイバッグ・マイボトルを使う：これらを持つことで、ごみはかなりへります。
- ★徒歩や自転車で出かける：健康的でけいざいで、地球にも優しいです。
- ★図工の材料を集める：お菓子の箱やペットボトル、アルミホイルのしんなど使えるものがいっぱいあります。
- ★グリーンカーテンを作る：これはわたしの家のグリーンカーテンです。クーラーがなくても涼しく感じます。緑が家にあると気持ちも落ち着きます。

- 電気を大切に使う
- 水も大切に使う
- ごみを分別する
- マイバッグ・マイボトルを使う
- 徒歩や自転車で出かける
- 図工の材料を集める
- グリーンカーテンを作る

これは友達がつくったエコバッグです。葉っぱでスタンプを押したそうです。



そのほかにもあります。

右の3つは買い物のときに気をつけたいです。

私たちが環境のためにできることは、このように身近にたくさんあります。みなさんも地球に優しい生活をしてみてはどうでしょうか。

- ごみ拾いをする
- ものを大切に使う
- 必要な時に必要な分だけを買う
- 長く使えるものを買う
- 包装の少ないものを買う



2. 安行小学校

安行小学校は、学校ができてから144年目という伝統のある学校です。学校には校門の近くに大きな「くすのき」があります。遊具のそばには堂々と葉をひろげた「けやき」が伸びています。

たくさんの緑に囲まれ、自然豊かな学校です。

学校のすぐとなりには、昔の安行の自然を残した「安行原自然の森」があります。

安行中学校の下には「ふるさとの森」があります。

○6年生のぼくたちは、5月2日、ふるさとの森に見学にいきました。ふるさとの森は、地域のボランティアの市民が育てています。そこには、川口市の天然記念物イチリンソウが育っています。

5月になるとイチリンソウが一斉にさきます。



ふるさとの森では「ほたる」も育てています。幼虫を見せてもらいました。これはわき水です。わき水のそばには、サワガニもいます。このわき水の水路で夏にホタルが光ります。

ここがホタルを育てる施設です。



○安行小学校でも、ホタルを育てるホタルプロジェクトが始まりました。

・5月16日、地域にお住まいのホタル名人の田中さんに学校に来てもらい、安行の自然、ホタルについてお話を聞きました。

安行の自然が失われ、田んぼがへり、農薬を使うことで水がよごれホタルがいなくなったことがわかりました。

・ホタル飼育が始まりました。ホタル実行委員会です。ホタルのエサは、田んぼのタニシです。

週に2, 3回 タニシを細かく切ってエサにします。



6年生は総合で「安行の歴史や文化を調べよう」をテーマに学習してきました。

5月2日 「ふるさとの森」訪問





これがホタルの幼虫です。

ホタルは、幼虫の時代は水のなかで過ごしますが、さなぎになるときは、土にあがります。土のなかに土まゆを作って成虫になります。



・ 7月2日 ホタルが成虫になって光はじめました。成虫はエサを食べることはありません。水分だけ取って一、二週間がじゅ命です。

おしりに発光器があり、二つあるのがオス、一つしかなければメスです。



・ 7月14日、成虫になったホタルをはなす日がやってきました。場所は、職員室前のビオトープと田んぼのまわりです。ホタルを、水ごけといっしょにそっとおいてあげました。



夜、暗くなりました。6年生のこれまでの取り組みを発表しました。ナイトミュージアム2017が始まりました。

その後、ホタルの鑑賞会を行いました。はじめてホタルを見る人も多かったようです。「きれいだね!」という声があちこちで聞こえてきました。

失われたホタルの光をとりもどすことができうれしかったです。

・ 夏休み、ホタルの成虫はみんな死んでしまいました。

でも、それから3週間もすると、ホタルの卵が産まれていました。水ごけに水を流しながら、小さな小さな産まれたばかりのホタルの幼虫をスポイトで集めていきました。



これが生まれたばかりのホタルの幼虫のすがたです。
 小さく切ったタニシをえさにあげました。
 ホタルのいのちを、これからもつないでいきたいです。
 ホタルを育てながら、安行の自然について考え、行動
 していきます。



3. 安行小こどもエコクラブ

ぼくたちは 安行小こどもエコクラブのエコキッズ！です。
 安行小学校ではエコクラブでたくさんの生き物を世話して
 います。ウサギのほかに… カブトムシ、ナマズ、カメ、トンボ
 のヤゴ、ギンブナ、ザリガニ、メダカと、いっぱいいます。
 その中でも一番人気なのは・・・ヤギさんたちです。

安行小学校では、エコクラブと飼育委員会が協力してヤギを
 飼っています。ヤギがはじめて安行小学校に来たのは、去年の
 6月10日でした。

神根にお住いのヤマオカ園芸の山岡さんからヤギと羊を長い
 間お借りすることができました。

・トラックでヤギたちが運ばれてきました。
 山岡さんは小さいころから生き物が大好き
 で、今では、ヤギや羊を5, 60頭も飼っ
 ているそうです。



ヤギたちに草をさしだすとうれしそうに食べます。
 囲いには、ヤギが登れるような高い切り株をならべました。
 25分休みには給食のときに出る、野菜くずをあげています。
 休み時間、ヤギと散歩することもあります。ヤギと散歩できる
 学校って楽しいと思いませんか。



・6月25日 羊の毛刈りを行いました。毛をかる大きなバリカ
 ンです。山岡さんが羊をかかえて、うらがえしにしておさえまし
 た。どんどん毛が刈られていきました。

羊は、一回りも二回りも小さくなって
 びっくりしました。
 この毛が羊毛、ウールになってセーター
 ができる…と聞いてびっくりしました。



・12月22日 2学期終業式の日です。
 メスヤギの「みるく」が赤ちゃんを産みました。
 午前10時ごろ、25分休みにはもう赤ちゃんが生まれていました。
 学校中、大さわぎになりました。
 お母さんのみるくが、赤ちゃんをなめて体をきれいにしています。
 赤ちゃんヤギは、1時間もしないうちに立ち上がり、おっぱいをの
 みはじめました。ねどこにわらをひいてあげました。



2日目には、小さな切り株のうえにちょこんと乗りました。

3日目には高い切り株にのりました。ちょっとこわそうです。

6日目には牧草を食べ始めました。



・赤ちゃんに、みんなで名前をつけました。真っ白なヤギだから「ゆき」ちゃんにしました。ヤギたちの牧草が足りなくなってきました。

そこで、2月ヤギ募金を行いました。募金してくれた人には、ヤギさんたちの写真のしおりをわたしました。

ゆきちゃんはぐんぐん大きくなり、頭には小さなつのも見えてきました。

・春休みはまた、山岡さんの牧場に里帰りしました。

そして、5月9日連休明け、ゆきちゃんたちが学校にもどってきました。春休みを過ぎて、ゆきちゃんは今もうしっかりした子ヤギへと成長していました。



・6月27日 またまた大事件がおきました。

お母さんヤギの「みるく」がまた赤ちゃんやぎを産んだのです。今度は双子です。しかし、2匹目の赤ちゃんは仮死状態で生まれてきました。

一生けんめい、赤ちゃんヤギをなめる「みるく」。赤ちゃんヤギはなかなか立つことができません。頭をあげられても、前足で立つことができません。立たなければおっぱいをのむことができません。

すぐに、山岡さんがかけつけてきてくれました。お母さんヤギの乳をしぼって、ほにゆうびんで乳をあげました。少し元気が出ましたが、やはり自分で立つことはできませんでした。立てないとおっぱいを飲むことができません。人があげるといってもかぎりがあります。



そして、とうとう次の日の夜中、午前2時に赤ちゃんヤギはなくなっていました。お花をそえてうめてあげました。せめても、生きたあかしにと名前をつけてあげました。バニラちゃんです。バニラちゃんの分ももう1匹きの赤ちゃんには育ててほしいです。名前は「ちょこ」ちゃんになりました。



・そして… 7月19日、夏休みの前に、牧場に里帰りする日がやって

きました。山岡さんのトラックが学校にやってきました。みんなで見送りをしました。

「たくさんかわいがってくれて、ありがとう」と山岡さんが言ってくれました。お礼を言うのは、ぼくたちのほうです。ヤギたちがいるだけで、やさしい気持ちになりました。ヤギさんたちとはしばらくのお別れです。

校門にみんなでならんでやぎを見送りました。

・夏休みになりました。ヤギたちがいない学校は、なんかさびしいです。

ぼくは、夏休みの自由研究で「ヤギ」について調べました。

ぼくは、安行小にいるやぎが大好きです。休み時間は、毎日、小屋の前についてずっと見るほどです。そこで、気になっていたことを調べてみました。

▽ヤギの目を見たことがありますか。ヤギの目は瞳の形が横長で長方形をしています。横長の瞳は、草を食べながら敵の姿を発見しやすいのです。

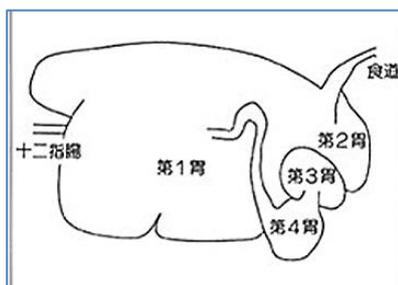
ヤギの視野は、なんと320度から360度もあるそうです。夜になると瞳は丸くなります。

▽ヤギの前歯は、下あごにしかないことを知っていますか。

上あごは、かたい歯ぐきだけです。下あごの歯をつかって、ちょうど、まな板と包丁のように草を切って食べます。

▽ヤギの胃は牛と同じように4つもあります。

食べた草を長い時間かけてゆっくり、繰り返し消化します。草食動物の腸は長いです。人間やライオンは7mぐらいですが、ヤギは30mもあります。



▽ヤギとふれあいながら、ヤギの行動についていろいろ調べてみました。

顔をぺろぺろしあったり、おでことおでこをこんこんしたりするのは、やぎのあいさつです。

頭と頭を軽く押しあっているのは、遊んでじゃれあっています。

みなさんはヤギ語がわかりますか？いくつかヤギ語を紹介しましょう。あててみてください。

第1問 メェ！メェー！（強く鳴く）
これは何でしょう 1、おなかがすいた
2、助けて！
3、よろこんでいる。
正解は2 助けてです。

第2問 メェ メェ メェ（繰り返し鳴く）
これは何でしょう 1、おなかがすいた
2、助けて！
3、よろこんでいる。
正解は1 おなかがすいたです。

みなさんも、ぜひヤギと友達になってください。そして、ヤギたちの行動や気持ちもわかってあげられると、ヤギと仲良しになれますよ。

7月23日は、学校あげての美化作業の日です。みんなで力を合わせて、木の間伐や草とりをします。



これはコンポストです。安行小学校では、給食で出るデザートのパイの皮を集めて土づくりをしています。

ウサギのフンも集めて、ねかせて肥料にしています。

この日は、ヤギさんたちの牧草やフンをあつめて囲いの中をきれいにしました。

集めたフンや牧草は、畑に持っていき肥料としてまきました。



その栄養で、たくさんの野菜を育てて
また、10月からやってくる「ちょこ」
ちゃんたちに、おいしい野菜を食べさせ
てあげたいです。



4. 自然っ子クラブ

川口の北の方の見沼自然の家で活動しています。4つの活動は4つあります。



○田んぼの活動

1つ目の活動：田んぼの活動です。6月に田植えをしました。

イネの花を見る会

8月、朝6時に
集まって、イネの
花を見る会をしま
した。



稲かり

10月、イネかりで
す。イネを木にかけて
ほしています。



収穫祭

12月、収穫
祭です。おもち
をつけて食べ
ました。



昔の農家の
体けんです。



自然を守る活動も

まわりの道路の
ゴミひろいをして
います。



○生き物自然調査

2つ目の活動です。

生きもの自然観察調査で
す。200枚以上のカードをも
でき、見つけたらもらえま
す。



春、植物の会の西川先生に教え
てもらいます。

田んぼの生きもの調査

夏、田んぼの生きもの調
査です。7月、田んぼの生
きものしらべをしました。



見沼代用水
にあみをかけ
ました。



ハグロトンボのヤゴ
ドブシジミ、ドジョウ、
スジエビ、
カマキリムシです。



夜の観察会

夜の観察会では、
メマツヨイグサの花が開
くところを見ました。



アブラゼミの羽
化も、みんなでひと
こともしゃべらず、
観察しました。



バッタ選手権



環境アドバイザーの横山さん
に来てもらい、バッタ選手権をし
ました。40m以上、ツユムシが飛び
ました。
お父さんたちも手伝ってくれまし
た。



8月、デイキャンプで、虫と
葉っぱの標本を作りました。

生きものカードもこんな
集まりました。



○ものづくりと食べること
原子パンを焼いて食べました。
お芋を育てて、ヤキイモに
して食べました。



秋には、クルミ、マテバシイのおもち。イナゴのつくだ煮も食べました。

アイの生葉ぞめ

アイを育てて、
生葉でぞめました。



ミツバチさん
が来たよ

ミツバチを呼
んで、ミツをしぼ
りました。



羊さん呼んで、ニードル人形作り

山岡さんと羊を呼んで、毛刈りを見ました。ニードル人形も作りました。

〇4つ目は、外への活動

ラオスへ文具と絵本を送ろう

「ラオスの貧しい子たちへ文具と絵本を送ろう」の取り組みです。

教室の屋根にあなが開いて、雨が降るとお休みになるところもあるそうです。



バンウー小学校とバンシン小学校へ、えんぴつやボールペン、絵本を直接もって行って手渡ししています。教科書はむこうで買っています。

絵本は、日本の本にラオス語の文字をはって持っていきます。今年も本を集めています。リストのほしい方 後でもらいに来てください。本を初めて見る子もいて、すごく喜ぶそうです。



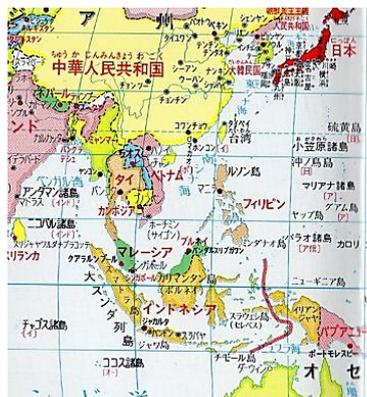
ラオスの子供たちは、刺しゅうがじょうずな子もいます。その作品を買ってきてもらいました。よかったら買ってください。



ボルネオお礼プロジェクト

外への活動②

ボルネオと日本は、とてもつながっています。飛行機で、ジャングルまで5時間半です。野生のゾウやオランウータンがいます。



3本づのコーカサスオオカブトやアカエリトリバネアゲハなど、たくさんの生き物がいます。



そのジャングルが、いまは、このパームヤシ畑にかわってしまいました。

ボルネオの半分がジャングルからパームヤシ畑にかわりました。左がパームヤシ畑、右がジャングルです。





パームヤシとは、小さなヤシの実です。そのヤシをしぼって取れるのがパームヤシ油です。ポテトチップスやラーメンをあげる油に使われています。



ドーナツ、チョコレート、アイスクリーム、せつけん、シャンプーなどに使われて、日本人が一人1年間に4kgも食べています。



わたしたちの安くて便利な生活の裏で、オランウータンなど大切な地球の仲間たちの住むところなくなっています。

日本からの応援として、川沿いの土地を買ってジャングルに住む動物のために木を植えることをしています。

それで、たたみ1枚の土地が買えるのです。協力してください。



5. 戸塚南小あすばるエコクラブ 地球はビオトープ

戸塚南小あすばるエコクラブは、戸塚南小学校の環境学習をさらに地域にひろげたいという願いから9年前にスタートしました。

○この写真をみてください。



9年前に、みんなでつくった学校ビオトープです。9年前の9月に、池づくりからスタートしました。

はじめは、校舎と校舎にはさまれた、雑草がはえているだけの場所でした。土をスコップでほって、水がもれないように防水シートを何枚もはりました。



2008年 9月11日 自然探検クラブ 池づくりスタート!



水もれないようにシートを何まいもはりました



10月13日 水いれ 戸塚南小エコクラブ

10月、水入れです!池のまわりに石をおきました。池の出来上がり!どうですか?すてきな池になりました。

川口の水辺の池ということで植物も植えていきました。竹でさくも作りしました。そして、できあがったのがこの学校ビオトープです。



あまり生きものを見ることのなかった場所に、池ができて、植物が育ってくるとたくさんの生き物が見られるようになってきました。

カナヘビ、イチモンジセセリ、カラスアゲハ、ヤマトシジミ、キチョウ、ノシメトンボ、キジバトが水をのみにやってきます。



カナヘビ



カラスアゲハ



ヤマトシジミ

池にはメダカが泳いでいます。
よくみると マッカチン、
アメリカザリガニです！



イチモンジセセリ



キチョウ



ワシメトンボ

その年の10月 自然観察員の横山さん
に来ていただき、植物を植えました。



10月29日(木) 緑瀬川を愛する会の横山さんといっしょに木を植えました。



アカメヤナギを植えました。

○あれから9年。こんなに大きくなりました。

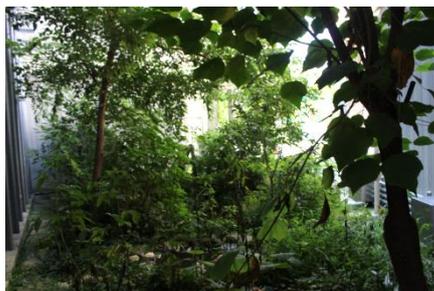
準絶滅危惧種のアカガエル
も育っています。毎年2月の
終わりには、この池で卵を産
むようにもなりました。



池をつかって、植物をうえ、木々を植えて
ビオトープを育ててきました。

そして、たくさんの生き物がやってくる
ようになりました。

しかし、できあがったビオトープはその
ままでいいというわけではありません。



ほおっておくと、夏などは、うっそうと
植物が茂って暗い場所になります。

この写真をみてください。今年の夏休みの学校ビオトープです。木や草が
伸び放題にのびています。ビオトープの中は暗く、池にもあまり光が入りま
せん。



そこで、夏休みが終わった9月3日。戸塚南小エコクラブで、ビオトープ
の手入れをすることにしました。のびすぎた草を刈っていきました。

伸びほうだいのアカメヤナギも間伐をして、枝を落として、ビオトープに光が入るようにしました。

池は直射日光が入りすぎてもいけません。半日なた半日かげになるように手入れをしていきました。



木を切るといって自然破壊だから、だめ！と
思う人もいるかもしれませんが、そんなことは
ありません。森や林でも、下草や木の間伐など
の手入れが必要です。手入れが終わったころ、
池の様子を見ていると…いました、いました！



アカガエルです！もう1匹水の中でも見つけました。

すいすいと気持ちよく泳いでいきました。

学校ビオトープの手入れが終わったら、お楽しみ、ゴーヤチップス作りです。

見てください。これは、戸塚南小学校のグリーンカーテンです。グリーンカーテン作りは始めて11年たちます。

高枝きりばさみをのぼしてゴーヤを収穫しました。おいしいゴーヤです。

ゴーヤを水あらいして、はじを落として、たてに割り、中のわたをとります。

うすくスライスして、かたくり粉をまぶし油で、すこしきつね色になるまであげます。

“ゴーヤチップスのできあがり！”天ぷらよりのカレー塩をかけて、いただきます。

あつあつの、からから、ちょっと苦みがあるけれどゴーヤチップスは、とってもおいしかったです。



○この写真をみてください。

ここは学校南側にある戸塚下台公園の斜面林です。斜面林には竹林があります。今は、竹林はとてもきれいです。が、12年前に学校ができたころは、竹林のなかはごみだらけ、竹もぼうぼうでした。



エコクラブで竹林の整備を始めました。今では、学校のPTAとも協力して、年4回の竹林間伐をしています。

竹は、密集してはえると、光をもとめて外へ外へと根をのぼしていきます。竹林をこえて樹木林のほうにも根をのぼしていくと大変です。竹のほうが木よりも早く成長します。竹が伸びて、光をうばい、木はどんどん枯れてしまいます。だから竹がしげりすぎないように、竹を間引きする間伐が必要です。



竹を切った後は、竹で遊ぶこともできます。竹を使って竹いかだをつくったり！竹とんぼをつくったりもしました。



○学校から南にくだって斜面林のへりの、昔の道路ぞいにわき水がしみて出ていました。かいだんの踊り場もじめじめして歩いて歩くのに不便でした。

いっそのこと、わき水をながして池にできないかと考えました。11年前のことです。



公園課の許可をいただいて、ツルハシでアスファルトをはがしました。

すると、すぐに水がわきだしました。

みんなで掘って、掘って、わき水のトンボ池が完成しました。見沼からサンカクイなどの植物をもらって植えて、トンボ池の完成です。

トンボ池には毎年、たくさんのヤゴが育ち、トンボがとびたっていきます。

○ここは公園の水路です。この水路は一度水がかれてしまいました。

でも、エコクラブで井戸を掘り、川口市にお願いして、電動ポンプをつけてもらい水がよみがえりました。

水路のまわりにも、毎年植樹をしています。見かけなくなったアカガエルも復活しました。

さらに、水路に稲を植えて、鳥たちがやってくるようにもしました。

斜面林も、学校ビオトープと同じで、人の手入れが必要です。斜面林も地域の大きなビオトープなんだと思います。

こう考えていくと、地域をこえて、国、いやこの地球も、大きな大きなビオトープなんだということがわかります。自然を守り育てるためには、そのままではだめで、適切な人の手入れが必要です。

4月30日、毎年こうれい、斜面林でのタケノコ掘りがありました。参加人数はなんと300名をこえました。

みんなで竹林のめぐみのタケノコを掘って食べます。タケノコをとることも竹を間引くことになるので、竹林間伐になります。

取ったタケノコは天ぷらにして、おいしく食べました。



自然を大切にしながら、自然のめぐみをもらう。楽しむ。地球はビオトープとういことを考えながら、これからも、楽しくエコクラブを続けていこうと思います。

6. 自然探検コロボックルくらぶ



自然探検コロボックルくらぶは、環境アドバイザー横山隆さんが中心となって活動しているエコクラブです。

わたしは、戸塚南小あすばるエコクラブで、ジュニアサポーターとして参加しながら、



このエコクラブでもジュニア自然観察指導員としてごいっしょしています。

コロボックルというのは、アイヌに昔から伝わる自然のまもり人。小人たちです。

コロボックルクラブでは、みんなで、森や川、自然守り、自然中の暮らしや遊びを楽しんでいます。



わたしたちの主な活動は戸塚綾瀬小学校のすぐそばにある「綾瀬の森」です。



この綾瀬の森は、人が植樹をして、再生させた森です。

昔、この土地にはたくさんのお木々、桜並木がありました。地域の人々のいこいの場でした。しかし、大雨が降ると洪水になるのを防ぐために、川の幅をひろげ、流れを変える工事が行われることになり、300本以上が切り倒されました。

今から16年前、2001年のことです。

工事の後、新たな森づくりが始まりました。地域のボランティア「綾瀬川を愛する会」のみなさんが、中心になって森の再生の取り組みが始まりました。たくさんのお木や草を植樹し、保護してきました。



切り倒された桜の木



対岸から見た「新綾瀬の森」



植樹後の添え木設置



対岸から見た綾瀬の森と綾瀬小学校

そして、今の綾瀬の森が育ちました。

コロボックルクラブでは、この綾瀬の森で季節ごとにいろいろな活動をしています。

○春4月、野草の天ぷら。
春の野草調べをして、食べられるものと食べられない野草を調べます。



これが、私たちが作った綾瀬の森レストランのメニューです。さあ、天ぷらの料理が始まりました。たんぼぼの天ぷらです。春を丸ごとおいしくいただきました。

○5月、桑の実 ジャムづくり。



綾瀬の森にはたくさんのクワが育っています。植樹をしたわけではありません。きっと鳥がクワの実を食べて、その種を落としていったのでしょ。これがクワの実です。



クワの実を集め、砂糖といっしょに煮込んでジャムを作りました。

ビスケットにクワの実ジャムをぬって、いただきます。

みんなすてきな笑顔になりました。



○8月、夜の生き物さがし。

夏休みの夕方、みんな懐中電灯を持って森に集まりました。夜の観察会の始まりです。セミの羽化を中心に、観察会をおこないました。

アブラゼミの羽化が始まりました。



みんな真剣に見つめました。背中が割れて、成虫が出てきました。

ゆっくり羽をのばしていきます。透明で薄緑がかった羽のドレスのようにとってもきれいでした。

命の誕生を見守りました。



○10月、どんぐりゴマ選手権。

秋になると森にはたくさんのどんぐりが落ちてきます。コナラ、シラカシ、クヌギ。

どんぐりに、ようじをさしてどんぐりゴマを作ります。そして、みんなでどんぐりゴマ大会です。ちっちゃーのち！森に子どもたちの大きな歓声がひびきました。



○12月、森を元気にしよう。

北風が吹く森に、たくさん子どもたちが集まりました。

今日は、森の手入れです。木の枝おろしをしながら枯れ枝を集めて虫の家を作りました。

小さい子供たちは、落ち葉のお風呂で大はしゃぎです。

手入れが終わったら、焼き芋づくりです。

ほかほかの焼き芋ができました。



綾瀬の森は、年々豊になっていきます。

わたしたちは、その森といっしょに遊びながら、森を守り育て、森の恵みももらっています。

この綾瀬の森で、今年4月、大きな事件がありました。

綾瀬の森の中心には、樹齢 100 年という大エノキの木があります。この木は、18 年前の工事でも切らずに残すことができました。

そして、川をはさんで、向こう岸にも、大エノキがあります。この木もずっと残して守ってきました。

ところが、「カラスが巣を作って、フンが落ちてこまる」というような一部の人の苦情から、この大エノキが切り倒されてしまったのです。

2001 年の工事のときは、この木を守るためにわざわざ土手の設計を変えてくれたのに、18 年前のことがよく伝わってなかったために切り倒されてしまいました。



「本当に悔しく、悲しい」できごとでした。自然を守り育てるために、わたしたちがきちんと声を出し、守り続けていくことが大切だと思います。自然をただながめ、楽しむだけではいけないのではないのでしょうか。残された自然は、わたしたちが意識して守り育てていく必要があると思います。

○今、綾瀬の森には新しい大きな問題が持ち上がっています。

今からちょうど 1 年前、「お年寄りや車いすの方でも通りやすいように」という理由から、綾瀬川の土手を舗装する計画が始まりました。

ここがその土手です。ここで、自然観察会や虫取りをしています。

それはつまり、わたしたちがいつも活動する綾瀬の森の土手もアスファルトで埋められてしまうということ。皆さんどう思いますか？

舗装した方がいいと思う人、舗装しない方がいいと思う人、どちらの意見もまちがいではないと思います。私たちのまわりにも、舗装したいという人、しない方がいいという人、両方います。

わたしはその中で、「舗装はしてはいけない！」とあって、県に宛てて手紙を書きました。この原文を父と一緒に清書し、県に出しました。



私は、県内の高校に通う 16 才です。

この度、綾瀬川の土手が舗装されると聞き、どうしても納得することができずにこのメッセージを送った次第です。

私は、小学生の頃、親しい先生のお誘いを受けて戸塚南小あすばるエコクラブに入りました。そこで綾瀬川と川に沿って続く綾瀬の森にも行くようになり、そこに暮らす動植物の生きる姿を間近に見てきました。その後、新たに“自然探検コロボックルくらぶ”が発足し、そこでもまた、今まで知らなかったいろいろな綾瀬の森の魅力に気づかされました。鳥も虫も魚も植物も、精一杯自分の命を生きていることを知りました。登校拒否に陥った中学生のときも、綾瀬の森は変わらずに私を支えていてくれました。

そんな綾瀬の森が変わってしまうと聞いたときは、正直驚きを隠しきれませんでした。“綾瀬川を愛する会”の幾島さんにおたずねしたところ、「身障者の方や年配の方も気軽に来れるように」とのことでしたが、私は複雑な気分になってしまいました。

県内の緑地が次々と消えていく中、綾瀬の森は自然のままの姿を留めた数少ない場所です。川口市のクールスポットにも選ばれ、絶滅危惧種のキリギリスやナガボノアカワレモコウ等も生息が確認されています。そんな森の、土手だけとはいえ、上を人工物で覆ってしまえば、綾瀬の森に棲む様々な生き物に悪影響を及ぼしてしまいます。

例えば、コロボックルくらぶでは、毎年夏に綾瀬の森で夜の観察会を開催しています。

その時、一番の盛り上がりを見せるのは、セミの幼虫の羽化の観察です。固い地表を破り、木に登り、いつ他の虫や夜行性の動物に襲われるかもわからない、死と隣り合わせの危険の中で、それでも生きるために成虫への過程を歩むセミの姿は、見る人に強い感動を与えてくれます。

しかし、土手が舗装されてしまえば、その下の土の中で夏を待つセミの幼虫を始め、たくさんの生き物たちが外に出られず死んでしまいます。植物も芽を出すことができません。

ただでさえ緑が少ない、生物が減っていると叫ばれている今このとき、自然の姿を損なうようなことをしてもいいのでしょうか。舗装をせすともウッドチップをまく等すれば、車イスも通りやすくなる上、自然の姿を失わずにすむことができます。私たちは、綾瀬川と綾瀬の森を守り続けます。絶対に諦めません。ご検討をお願いします。

自然探検コロボックルくらぶ ジュニアリーダー 岩川與蒔野

さらに、わたしたちコロボックルくらぶは、今年の7月、すでに舗装された草加市の土手と、まだ舗装されていない川口市の、つまり綾瀬の森の土手の温度を測り、比べる実験をしました。

その結果、土のままの地面の方が熱を吸収して涼しく、アスファルトの地面は熱をはね返し、周りの空気も熱くなることに気づきました。

そして8月、夜の観察会に市の職員のかたに来ていただき、7月の実験の結果を、土手の工事についてのわたしたちの意見を聞いてもらいました。すると、ほとんどのメンバーどのお父さん、お母さんまでもが、「土のままの土手がいい」と言ってくれました。もちろん「舗装した方がいい」という意見の人もいましたが、職員の方は、真剣に耳を傾けてくれました。

朝日新聞の記者の方も取材に来てくれました。

そして、8月末に行われた会議で、綾瀬の森にある土手は土のまま残す方針が決定しました。このお話を聞いたときは、本当に、本当にうれしかったです。まだ完全に安心はできませんが、わたしたちの思いが伝わったんだなど、ほっとしました。

今、たくさんのエコ活動を行っている皆さん。このことをきっかけにみなさんが減っていく身近な自然を守ろうと思ってくれればうれしいです。

「大人の決めたことだから」「決まってしまったことだから」なんてあきらめてしまわないでください。協力してくれる人、応援してくれる人は必ずいます。何も言わないままでしたら、消えてしまうたくさんの命。それを変えていけるのは、みなさんの一声なのかもしれないのですから！



7 メッセージ 平林 豊（お手紙をいただいたので代読しました。）

私は、生まれも育ちも川口市で、現在は、川口市南鳩ヶ谷にある“鶴見製紙株式会社”というリサイクル100%のトレットペーパーを作る会社で働いている27歳です。

学生時代は、大東文化大学の環境創造学部で、ゴミ問題や環境問題、市民の住みよい街づくりについての勉強をしていました。



ゼミという授業では、埼玉県のとかがわ町というところで、森林保護活動や地域活性化を目的とした活動を行いました。

具体的には、手入れがされずに放置された森林地帯へ出向き、伐採・植林をして放置された森林を再生するという活動内容です。

現地住民の方々や、NPO団体の方々と協力して活動を行っていました。時には現地の住民方のお家に泊めていただき、お手伝いをしたり、山村での生活を体験しました。

これから、私がなぜ大学に進学し今の会社で働く事になったのかをお話したいと思います。

私は中学生の頃、給食委員会の委員長をしていました。みなさんは、給食や普段の食事の残り物について、もったいないと思ったことはありませんか？私は給食委員として、毎日給食室で残った給食の後かたづけをしているとき、それを見ていつももったいないなと思っていました。

例えば、40人のクラスから、30個もキウイフルーツや牛乳が、全く手がつけられていない状態で残り物として給食室へ戻ってくるがありました。私の中学校では、それらはすべて廃棄処分、つまりゴミとなっていました。それを目のあたりにし、毎日心が痛み、どうにかできないものかと思っていました。

そんな時、エコライフデイのチェックシートに、日頃給食委員としてもったいないと感じていることについて書きました。

すると、その文書が川口市民環境会議の方々を目にとまり、共感していただき、それがキッカケで、川口市の環境フォーラムに参加することになりました。そのときに残り物について調べて発表をする機会をいただきました。

環境フォーラムに参加して、他の学校のみなさんや高校生、大学生のお兄さんお姉さんの発表を聞いて、地球温暖化や省エネルギー等の環境問題にも興味をわくようになりました。

そして、その興味は高校生になっても変わらず、ついに高校三年生になり、大学はどこへ進学するか決める時に、やはり中学生の時から興味があり、なんとかしたいと思っていた「環境」についての勉強がしたいと思い、この大学へ進みました。

大学では、4年間環境についての勉強をし、冒頭で申し上げたゼミ活動の「放置林再生プロジェクト」を通して、森林や限り有る資源の大切さを知り、自然の素晴らしさを感じてきました。

そして、あっという間に、今度はいよいよ卒業後の就職先を決める時期になりました。

どんな仕事がしたいかなあと考えてみると、テニスやスポーツが好きなのでスポーツに関わる仕事をしてみたいなあと考えていました。テニスラケットやボールを販売する会社や、いろいろなスポーツ用品を販売するお店で働けないかなあと考えつつも、たくさんの会社を調べているうちに、トイレットペーパーを作っている会社に目がとまりました。

その会社は、学校や会社で使わなくなった紙を、環境にできるだけ負担をかけない機械や設備でリサイクルし、古紙100%のトイレットペーパーを作っている会社でした。

悩んだ結果、今まで、環境問題にいろいろな観点から取り組んできましたが、今後は、仕事として「紙」という再生利用可能な資源を、トイレットペーパーへと生まれ変え、世の中に広め、少しでも社会のため、環境のために貢献していきたいと思いました。

私が今、紙のリサイクルに関わる仕事をしているのも、このように、みなさんへ向けてお手紙を書かせていただいているのも、私が中学生の時、エコライフ日のチェックシートへコメントを書いたことがキッカケで、始まりであったと思います。

そして、それから今までずっと環境問題に興味を持ち続け、環境に関する多くの問題をどうにかしたい、少しでも環境保全に貢献したいと思い続けてきたからだと思います。

私は、続けることは大切だと思います。何こともすぐにあきらめてしまったら、それで終わってしまいますし、難しいと思ってもそこで少し我慢して続けてみるときっと良い結果につながると思います。

みなさんも、勉強や習い事、スポーツ等で難しい、うまくいかないと思うことがあると思います。

私も、働き始めてからは毎日のように失敗をし、難しいな、大変だな、と思っています。

そして現在は、再生紙100パーセントのトイレットペーパーを作るための原料を調達する仕事をしています。

古紙屋さんから、原料となる古紙を買い集めたり、行政機関や企業から排出される機密書類(小学生の皆さんに説明が難しいと思いますので、「排出される紙ゴミ」、という説明でも良いかもしれません)の溶解サービス(溶解=大きなフードミキサーのような機械の中に紙を入れて、大きな刃と水で溶かす事です)の提案も行います。

いらなくなった古紙や機密書類は、焼却やシュレッダー処分することもできますが、当社の工場では、溶解処理によるトイレットペーパーへのリサイクルが可能で、限り有る資源の有効活用をしています。

学校や会社、みなさんのお家でも、紙をたくさん使っていると思いますが、いかがでしょうか？

使い終わった教科書・ノートやプリント、新聞雑誌やチラシ、お菓子の箱やハガキや何かの申込書…スマートフォンやタブレットが主流になりつつありますが、まだまだ身の回りにはたくさんの紙があります。

そのような紙を、ただ捨ててしまうこともできますが、生まれ変えることもできるのです。

しかし、毎日コツコツとあきらめずに頑張っていると、昨日できなかったことができるようになったり、まだうまくはできなくても少しずつできるようになったり、良い方向へ進んでいることが実感できると思います。私も働き始めて5年目の未熟者ですが、そのような思いでなんとか毎日を頑張っています。

みなさんも何でも良いので、ぜひ何かを続けてみてください。勉強でもスポーツでも、好きなことでも何でも良いと思います。そこで成功体験ができると、今後生きてくると思います。

あとは、目標を持って物事に取り組むことも大切だと思います。

私の今の目標は、まだまだゴミとして捨てられている紙が世の中にはたくさんあるので、それらをできるだけ回収し、ゴミとして処分される前にトイレットペーパーとしてリサイクルし、人々の生活に役立てていきたいと思っています。みなさんも、何か目標をたてて頑張ってみてください。

8. 会場校学校紹介 幸町小学校教員

昭和4年4月30日 北足立郡川口尋常小学校分教場として開校、市内2つ目の小学校です。

屋上のソーラーパネル、屋上緑化など学校の施設を紹介していただきました。

《学校見学会》

学校見学会には、父兄を含めて30名強の参加者がありました。

「学校の照明は、環境を配慮し全部LEDになっています。また、町の中心にあるため、緑化が十分取り入れられないので、屋上庭園を行って



います。ベランダで水の管理が比較的しやすい多肉植物の栽培や、屋上では児童たちが、花や菜園に力を注ぎ自然環境を学んでいます。」等の幸町小学校の担当教員の案内説明により、屋上プール、庭園などを見学しました。参加者たちは、高層小学校ならではの街を見晴らせる景観や、ここかしこに工夫された教育環境に目を丸くし感動していました。



🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸 ワークショップ体験（敬称略）

① どこんじょう草花をさがせ 講師：西川 昭三

積極的に自分たちで探し回っていました。帰化植物がやや多く、在来種もあった。決められた範囲の中でテーマを見つけて、実証するというおもしろい内容だと思う。子どもたちのやる気に感動した。

<たのしかったこと、おもしろかったこと>

- ・草をさがしたこと。
- ・知らない草がいっぱいあってわくわくしました。
- ・いろいろな見たことがある草の名前が知ることができてよかったです。
- ・みんなで草花をさがしたことがたのしかったです。ほんのすこしの土の中で植物がはえていておもしろかったです。
- ・小学校付近をまわっていろいろな草花を見つけるのがたのしかったです。あまりみなかった草もみられました。また参加したいです。
- ・このワークショップへの参加は初めてだったけどとても楽しかった。また来年も参加したい。



- ・かべと道路のすき間など、ビックリするようなところでも生きている植物がたくさんいて、「植物は強いな」と思いました。



- <もっとやりたいこと>
- ・もっとみつめたかった。 ・今回よりも大きい面積をさがしたいです。
 - ・もっといろんなところで草花をさがしたかったです。
 - ・けんぴきょうなどをつかったじっけんをしてみたいです。
 - ・もう少し行動はんいを広くして、もっといろいろな植物をみつきたい。
 - ・生き物にまつわる民話を調べてみたいです。

② 「エルザの屋上から緑を見つけよう」 講師：荒川夢クラブ／林美恵子

・子どもたちだけでなく、お父さんお母さんもごいっしょに和気あいあいのコースの雰囲気となりました。普段は入れないエルザタワーの最上階ラウンジから川口市の緑の現状を学ぶという貴重な機会に、にぎわう商店街や住宅地で意外に多くの動植物と出会う機会に恵まれました。

・全体発表（午前、午後）時に、マイクを使っても、音声小さく後ろの席など良く聞き取れなかったのが小々残念です。

- ・こんな高いところから見たのは初めてだけど、川口の町も広いなあと思いました。
- ・左のほうにはマンションがたくさんあったけど、正面や右のほうには、あんまり高いたて物はなくて遠くまでよく見えました。
- ・荒川の写真を見せてもらったけど、ふだん見ているのと違って、広く長くつながっているのにびっくりしました。実さいにここから見られるとよかったのになあと思いました。
- ・10円玉がおおぼこできれいになった。 ・やのあさってという言葉を知った。
- ・歩いているときに、いろいろな植物をみつけた。



③ 「エネルギーって」何？ 講師：萩原 利夫

電気エネルギーを利用してエネルギーの変化を実験・体験しました。
電気エネルギーを利用したソニアモーターの原型模型を作りました。

<たのしかったこと、おもしろかったこと>

- ・小さなニアモーターと同じ仕組みでできたものの動きがおもしろかった。



- ・先生がおしえてくれた。たのしかった。
 - ・プロペラを回したのがたのしかった。
 - ・じっけんをしたこと。 ・ものを作ったこと。
- <もっとやりたいこと>
- ・魚つり、虫のすみか
 - ・きょうりょうってなあに
 - ・モーターを作ってみたい。
 - ・たようってなあに
 - ・ふくのつくりかた。
 - ・植物のはたらき



④ サイエンスショー 講師：川口市立科学館／田村洋一郎

小規模のショーは、近くで見ることができて良かった。

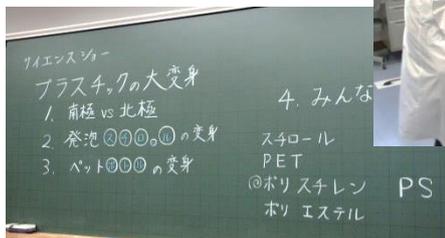
<たのしかったこと、おもしろかったこと>

- ・プラバンのアクセサリー作り。
- ・プラスチックを温めると小さくなること。
- ・絵を書くのがおもしろかったです。
- ・プラバン作り！ ペットボトルの変身。
- ・ペットボトルの変身を見るのがおもしろかった。
- ・発泡スチロールのリサイクルのしかたをしたこと。
- ・発泡スチロールがとけて、またさいりょうするところ。
- ・発泡スチロールが小さくなってまた発泡スチロールにできるということ。



<もっとやりたいこと>

- ・ほかにも小さくなるものがあつたら知りたい。
- ・もっと絵を書きたい。
- ・もっと変身がやりたい！プラバンがやりたい！
- ・プラバン工作。
- ・牛乳パックをリサイクルできるのか。
- ・川の生き物。



⑤ 手作りおもちゃ 講師：宮元 恒男

いずれもみなさん楽しくやっていた。

<たのしかったこと、おもしろかったこと>

- ・ロケットをつくったこと。 ・こま作り。
 - ・コマをつくったとき、三こつくりました。
- おもしろかったです。
- ロケットをつくっておもしろかったです。
- ・こまをつくったことやロケットをつくったこと。



<もっとやりたいこと>

- ・もっといろいろなものをつくりたかった。
- ・もっといろいろな種類をつくりたい。
- ・もっと、クッキングとかやりたかったです。
- ・色んなこまをもっとつくりたい。



⑥ エコなクッキング 講師：猿田 由美子

参加した小4の児童は、3. 11の時、宮城にいて、あばあちゃんの家みんな集まって暮らしていた事を話してくれた。カンパンも支給されたけど、毎日だと飽きちゃったとのことだったので、もっとみんなで工夫しながらいろいろな食べ方を考えるのも楽しいかな？と思いました。

<たのしかったこと、おもしろかったこと>

- ・電気や火をつかわなかったからすごいと思った。
- ・きのこボールをまるめる。
- ・つくったり食べたりするのが楽しかったです。(おもしろかったです)
- ・きなこボールをつくるときに手ぶくろつけて、くっついてたいへんだった。
- ・カリカリお好みやきは、口の中に入れたらお好みやきのあじがしました。



- ・きなこボールはもちもちしておいしかったです。
- <もっとやりたいこと>
- ・グミをつくってみたい。
- ・こんどやるときは「土がみずをきれいにする」をやってみたいです。



⑦ 段ボールで家作り 講師：女性建築士の会ほっと・すまいる／山崎由美子

ダンボールを使い、ソーラーパネル・グリーンカーテン・カーテン・断熱材などを取り付けた省エネ住宅を作りました。

<たのしかったこと、おもしろかったこと>

- ・いろんなことができた。
- ・かべ紙をはるところ。
- ・すごくせつけいするのがおもしろかった。
- ・家具を考えてつくるのがたのしかった。
- ・家を作ったのがとてもたのしかった。
- ・家のしくみを知ったこと。

<もっとやりたいこと>

- ・もっとかざりをつけたい。
- ・モールがあればよかった。
- ・自分が入れる家をつくりたい。
- ・とびらやテレビもつくりたいです。



⑧ アクリルたわし作り 講師：新納千枝子・猿田道子

子どもたちが喜んだ。温かい雰囲気の中で、指導する側も楽しんだ。

<たのしかったこと、おもしろかったこと>

- ・アクリルたわしはむずかしかったけどたのしかったです。
- ・もっとおおきくなったらお茶わんをあらうアクリルたわしをつくりたいです。
- ・アクリルたわしをつくっていろいろな話もきけてたのしかったし勉強にもなったのでよかったです。
- ・アクリルたわしを環境にやさしい材料で作れて、意外にかんたんで一石二飛でとてもいいなと思いました。人形タワシも、低学年でも簡単に作れて、パソコンのキーボードの上のほこりもとれて、すごい便利だなと思いました。すごくかわいいのに便利なので、これを考案してくれた人に感謝したいと思います。

<もっとやりたいこと>

- ・次はもっとアクリルたわしをつくりたいです。
- ・もっと大きかったり小さかったり、色をかえてみたりしてつくってみたいと思います。
- ・もっとアクリルタワシ、人形タワシを作りたかったです！！



⑨ 自然の材料で工作 講師：井原 勲

年長から4年生までそれぞれ工夫して一生懸命作っていた。身近にいろいろな材料があることに気付いて、これからも作ることに興味を持ってくれたら良いと思う。

<たのしかったこと、おもしろかったこと>

- ・自分でデザインしたり、フエをいただいたり、とてもまんぞくしていました。
- ・ふえをふいてあそんだり、舟のかざぐるまを、種をつかってやったりしたのでおもしろいし、たのしかったです。
- ・しぜんのざいりょうでじゆうにつくって、ふえもつくれてたのしかったです。
- ・もっとたっくさんつくりたかった。
- ・くるくるまわすのがたのしかった。
- ・ペンダントをつくれてたのしかったです。



- ・自分がやりたいとおりにできたこと。
 - ・ふえをならすのがむずかしかった。
 - ・ふえやいろんな物がつくれてよかった。
- <もっとやりたいこと>
- ・まだまだ、てるてるぼうずがつくりたかった。
 - ・板も使ってみたかったです。
 - ・エコなクッキングや手づくりおもちゃもやりたかった。
 - ・また、種などをいろいろつかってこうさくしたいです。
 - ・こま、くるま。 ・とぶ物を作る。



⑩ 土が水をきれいにする 講師：神山 裕則

- ・人数が少なかったので、スムーズに進められて良かった。お手伝いありがとうございました。
- ・午前中の発表は、一回休息が取れると良かった。・マイクの音がこもって聞こえにくかった。

<たのしかったこと、おもしろかったこと>

- ・ぼくは、牛乳をきれいにしました。最初は、白だったのに、ろかをするるとだんだんちやいろになりました。
- ・何回もやっていくと、どんどん水がきれいになっていくところがおもしろかったです。
- ・水がどんどんきれいになっていくところがおもしろかった。
- ・いろいろなものをたしていくのがおもしろかった。

<もっとやりたいこと>

- ・もっといろいろな水をためたかったです。
- ・もっといろいろな種類をろかしたい。
- ・今度はもっとよごれがおちにくい物とジュースなどでやってみたいです。



子ども環境フォーラム2017を終えて

今年の子ども環境フォーラムは、初めて川口駅近くの会場となりました。しかも、川口市では最新の都市型、7階建ての幸町小学校のご協力をいただいて開催することができました。

まだ夏の気配の残る2017年9月16日、雨が少し心配な中でのフォーラムとなりましたが、皆元気いっぱい、発表やワークショップを楽しみました。

これまでの会場と大きく違うのは、自然がほとんどない地域だということです。

しかし、学校近くの商店街のコンクリートの道路をよく見ると、わずかな隙間にいろいろな草がいたるところに生えていました。並々ならぬ根性を感じました。空を見上げると、高くそびえるエルザタワーが見えました。あの高いところからなら、川口市の自然が見つけれられるのではないか。その結果、新しいワークショップが2つ生まれました。「ど根性草花をさがせ」そして「エルザの屋上から緑を見つけよう」です。

当日は、子どもや保護者を含め、160名以上の参加がありました。

午前中は、6つの環境団体や学校の環境活動の発表がありました。また、子どものときから環境活動をしている方からのメッセージや、環境に配慮した都市型学校の特徴について幸町小学校の紹介がありました。

昼食休憩の後、特別企画でその場所を見学しました。幸町小学校の先生の案内で、希望者20名ほどが屋上の太陽光パネルや雨水利用の散水設備などを見学しました。

午後は10のワークショップが行われました。ベテランの講師の下で、参加者は楽しくて有意義な時間を過ごしたことが、感想文から伝わってきました。

いろいろとお忙しい中、会場校をお引き受けくださった幸町小学校の教職員の皆様、毎年ワークショップを引き受けくださる講師の皆様、子どもたちの環境発表のためにご尽力くださった皆様、そして、地域で支援して下さるたくさんの方々のおかげで、今年度の子ども環境フォーラムが、無事終了いたしましたことに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。これからも、どうかご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

認定NPO法人川口市民環境会議



子ども環境フォーラム2017報告書

発行：2018年1月
認定NPO 法人川口市民環境会議
<http://www.ne.jp/asahi/eco/ecolife>